

# 町長就任の

# ごあいさつ



扶桑町長  
江戸 満

町民の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様方、異常なほどの暑い夏を乗り越えられ、ご壮健にてご活動のことと心からお喜び申し上げます。

不肖私、この度の扶桑町長選挙によって再び町長に就任いたしました。町政を取り巻く環境が益々厳しさを増すことを推察しますと、再び町長に就任した喜びよりも、皆様の負託に答える責任の重さを痛感しているところであり、身の引き締まる思いであります。

我が国においては、かつて経験したことがないスピードで少子高齢化が進み、人口減少社会に入っております。情報化、グローバル化、地球規模の温暖化、低成長経済、地方分権などの時代の潮流が押し寄せてきています。

戦後の急速な経済発展によって築かれた工業社会が幕を閉じ、知識社会への転換が求められています。今私どもは大きな変革の時代であり、戦後の夢に区切りをつけ一歩踏み出す勇気が大事であると考えます。

私はこのような時代認識のもとに、次の3項目を町政運営の基本

姿勢として町政に取り組み日々精進する所存であります。

1. 未来をみつめ生活者の視点で、諸課題に真摯に取り組む  
孫・子が生活する時代を見つめること、そして生活者としての感覚を忘れないように努めます。

2. 集中と選択による施策を協働ですすめ、町の総合力を発揮する

「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」の選択が大事で、支え合い協力し合って進む時代と思えます。

3. 情報を共有し、透明性ある町政を推進する  
広報・広聴を充実させ、透明性を高めていく時代だと考えます。

次に私は、前任期中において、将来のまちづくりの姿と施策を町民の方々の参画のもとに「第4次扶桑町総合計画」として策定し、本年度4月からスタートいたしました。

この総合計画をベースに町政を推進することとなりますが、その



まちづくりの6つの柱は次のとおりです。

1. 安心できる健康・地域福祉づくり
2. 安全で快適な地域づくり
3. 豊かな心を育む人づくり
4. 環境にやさしいまちづくり
5. 多様な交流と産業による活気あるまちづくり
6. 協働・行政改革・情報共有の行政運営づくり

これらの諸施策は、時代の流れが地方分権へと進展し財政がひっばくする厳しい環境の中で進めなければならぬこととなりますので、常に諸施策・事業を見直し、効率化を図る行政改革並びに関係機関、各地区やさまざまな団体・ボランティアなどの支え合い、協力し合い、心を通い合わせる協働の姿が不可欠であると思います。また、目標を設定し、その達成を追求するとともに、結果を改善していくプロセスの定着が大事であると考えます。

これらのためにも役場が、時代の変化に適切に対応できるように、引き続き「温かく強い役場」を目指してゆきます。

私は、すばらしい扶桑町に住んでいることに誇りを持っています。

温暖な気候、堅固な地盤、豊かな水と緑の自然環境にあり、「地の利」に恵まれています。そして、社会における人間関係がどんどん希薄化してゆく傾向にあります。コミュニティ、自治会などの地域連携の基礎がとこのい、温かな皆様の「人の利」に恵まれます。このような「地の利」「人の利」

の中で、伝統・文化・風習が継承されています。

もとより町政は、「福祉の増進を図る」ことを目的として、広範囲・多岐な分野にわたっておりませんが、その基盤として最も大事なことは「人」と「人」、「行政と各地区等」の信頼であると確信しております。

私たちの扶桑町には、「地の利」「人の利」があり平凡ではありませんが素直な地域性と互助・自助の働きのある地域的な長所を持っております。

この「地の利」「人の利」「地域的な長所」についてももっと自信と誇りを持って良いのではないかと思います。「公助」はしっかりとすることは当然のことではありますが、変革していくこれからの時代は互

助・自助が実りある協働の姿へと進まなければ変化の流れに取り残される心配があります。そして、これからの時代はそれぞれが主体性を持って、それぞれの役割を果たすとともに連携し合うことが、地域の発展のための鍵となると考えております。

扶桑町が、孫・子の時代も進展をとげられるよう、私の人生最後の情熱を燃やす決意であります。

町民の皆様におかれましては、町政に対し一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様の益々のご健勝を心から祈念申し上げ、就任のご挨拶いたします。

